

経済学部
2020 年度
第 3 回入ゼミ説明会

Keio University



経済学部ゼミナール委員 HP <http://keizemi-keio.info/wp/>

公式 Twitter @2019keizemi

試験情報

A 日程 仮登録 2/4 10:00～2/6 15:00

B 日程 仮登録 3/13 10:00～3/14 15:00

2020 年 1 月 18 日 (土)

慶應義塾大学

経済学部ゼミナール委員会

2020 年度 経済学部 第3回入ゼミ説明会

Keio University



2020 年 1 月 18 日 (土)

慶應義塾大学経済学部ゼミナール委員会

— 目次 —

入ゼミに関する今後の流れ.	p.1
A 日程登録・試験に関して.	p.2-5
B 日程登録・試験に関して.	p.5-7
B 日程試験の発表、C 日程に関して.	p.8
募集ゼミ一覧、新規ゼミの紹介.	p.9-
経済学部ゼミナール委員会について.	p.
ゼミ説明会 会場全体図.	p.

A 日程ゼミ試験志望登録方法に関して

① 事前登録をする。(経済学部以外の2年生)

1月18日(土)に開催される第三回入ゼミ説明会までに経済学部ゼミナール委員会にて登録してください。登録完了している方には1月20日(月)、keio.jp上にメッセージを送付します。もし届かなかった場合は、仮登録用のURLが届きませんので、経済学部ゼミナール委員会入ゼミ担当までご連絡ください。

② URLを取得する。

1月24日(金)、学内サイト keio.jpにてお知らせとしてURLを通知します。経済学部2年生全員と事前登録している他学部2年生に送付します。

③ 情報を入力する。[2/4(火)10:00~2/6(木)15:00]

1) keio.jpにて配布されたURLにアクセスすると右図のようなログイン画面が出てくるので、メールアドレスを入力します。学内アドレスでしかログインできない設定になっています。



2) 右下図のようなフォームが開けるので、それぞれの項目を入力します。

【学部】【クラス】【学籍番号】【名前】【A日程志望ゼミ】は記入

必須となっています。

*学籍番号は数字8桁以外の場合エラー表示になります。

*重複防止のため、一人一度のみしかフォーム送信はできないようにしています。

*送信した時点でログインしたメールアドレスは自動で記録されます。

- 3) フォーム送信直後に、右図のような仮登録完了を知らせるメールがログインしたアドレスに届きます。

*右図のメールが証紙となります。

タイムスタンプが **Wed Feb 06 2020 15:00:00**

以前のもののみが有効です。

*メールが届かない場合は不具合が生じているため、一時間以内に届かない場合は経ゼミのアドレスまで連絡してください。

*変更届のフォーム URL は登録完了メールに記載されています。



④ 経ゼミが倍率を発表する。[2/6(木)17:00]

HP 及び Twitter にて倍率を発表します。

*トラブル対応のため、2月6日(木)10:00-15:00 は三田キャンパスに経ゼミ委員が常駐しています。

⑤ 変更届を出す。(変更希望者のみ) [2/7(金)10:00~15:00]

- 1) 仮登録受け付け完了メールに記載されている URL にアクセスします。フォームを開くまでは仮登録時と同じです。

- 2) 右図のようなフォームに入力する。

【学部】【クラス】【学籍番号】【名前】【仮登録ゼミ】

【本登録ゼミ】は記入必須事項となっています。

*学籍番号は8桁の数字意外すべてエラー表示になります。

*本登録ゼミ以外のすべての入力データのうち、1つでも仮登録時と異なる物があれば、そのフォームは無効とします。

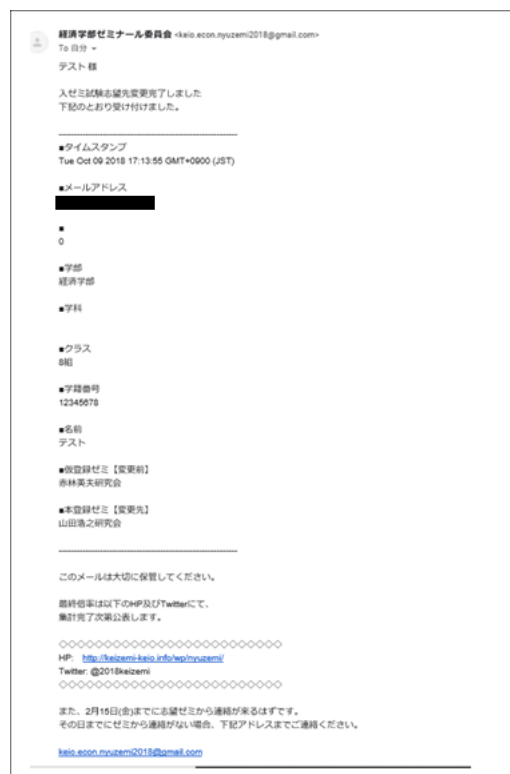
3)フォーム送信直後に右図のような受付完了メールが届きます。

*タイムスタンプが、

Thu Feb 07 2020 15:00:00 以前の

もののみ有効です。

*メールが届かない場合は不具合が生じているため、一時間以内に届かない場合は経ゼミのアドレスまで連絡してください。



⑥ 経ゼミが最終倍率を発表する。[2/7(金)17:00]

Twitter 及び HP にて最終倍率を発表します。

⑦ 各研究会から全志願者にメールを送っていただく。[2/7(金)～2/14(金)]

課題や ES などの提出を指示する内容等を全志望者にメールを送っていただきます。

その受信が確認できなかった生徒は、経ゼミからの受付完了メールに返信する形で経ゼミまで連絡してください。

A 日程試験・発表日に関して

【日時】 3月12日（木）

【場所】 三田キャンパス 各教室

【時間】 経ゼミ HP 上に、各研究会募集要項一覧を公開しています。
そちらをご参照ください。

【内容】 A 日程試験・合格者発表（B 日程の実施の有無および詳細発表）

B 日程ゼミ試験志望登録方法に関して

*A 日程と同様の登録方法であるため、「A 日程ゼミ試験志望登録方法に関して p.2～p.4 を参照しながら登録を進めてください。

① B 日程用 URL を取得する。[2/10(月)]

2月10日(月)、学内サイト keio.jp にてお知らせとして URL を通知します。

②情報を入力する。[3/13(金)10:00～3/14(土)15:00]

1) keio.jp にて配布された URL にアクセスし、学内アドレスでログインする。

2) フォームが開けるので、それぞれの項目を入力します。【学部】【クラス】【学籍番号】【名前】【A 日程志望ゼミ】は記入必須となっています。

3) フォーム送信後に仮登録完了を知らせるメールがログインしたアドレスに届きます。

*タイムスタンプが Thu Mar 14 2020 15:00:00 以前のもののみが有効です。

*メールが届かない場合は不具合が生じているため、一時間以内に届かない場合は経ゼミのアドレスまで連絡してください。

*変更届のフォーム URL は登録完了メールに記載されています。

② 経ゼミが倍率を発表する。[3/14(土)17:00]

HP 及び Twitter にて倍率を発表します。

*トラブル対応のため、3月14日(土)10:00~15:00 は三田キャンパスに経ゼミ委員が常駐しています。

④変更届を出す。(希望者のみ) [3/15(日)10:00~3/15(日)15:00]

1) 仮登録受付完了メールに記載されている URL にアクセスします。

フォームを開くまでは仮登録時と同じです。

2) フォームに入力する。【学部】【クラス】【学籍番号】【名前】【仮登録ゼミ】【本登録ゼミ】は記入必須事項となっています。

3) フォーム送信直後に受付完了メールが届きます。

*タイムスタンプが Fri Mar 15 2020 15:00:00 以前のもののみが有効です。

*メールが届かない場合は不具合が生じているため、一時間以内に届かない場合は経ゼミのアドレスまで連絡してください。

⑤経ゼミが最終倍率を発表する。[3/15(日)17:00]

HP 及び Twitter にて最終倍率を発表します。

⑥各研究会から全志願者にメールを送っていただく。[3/16(月)~3/20(金)]

課題や ES などの提出を指示する内容等を全志望者にメールを送っていただきます。その受信が確認できなかった生徒は、経ゼミからの受付完了メールに返信する形で経ゼミまで連絡してください。

B 日程試験・発表日に関して

【日時】 3月 24 日～26 日 *基本的には 3月 25 日に試験を行ないます。

【場所】 三田キャンパス 各教室

【時間】 経ゼミ HP 上に、研究会募集概要一覧を公開しています。

そちらをご参照ください。

【内容】 B 日程試験・合格者発表 (C 日程の実施の有無および詳細発表)

C 日程試験に関して

各研究会が B 日程を終えた段階で追加募集を希望する場合、C 日程募集を行なっています。

C 日程募集については、経済学部ゼミナール委員会とは関係せず、各研究会が独自に行なうこ

とになっています。そのため、本登録・一斉試験日はありません。

C 日程募集への応募を検討する学生は、B 日程終了後、各自で C 日程試験を行なうゼミと直

接連絡を取ってください。

＜研究会分野一覧＞

Pearl 欄に関して

○：Pearl 生を受け入れている。

*：日本語での議論が可能であれば○

×：受け入っていない。

分野	研究会名	専攻内容	PEARL
理論経済	大西広研究会	理論経済学	○
	尾崎裕之研究会	理論経済学	*
	栗野盛光研究会	マーケットデザイン	*
	小林慶一郎研究会	マクロ経済学、金融、財政、経済政策	*
	須田伸一研究会	理論経済学	×
	玉田康成研究会	応用ミクロ経済学	○
	津曲正俊研究会	ミクロ経済学	○
	廣瀬康生研究会	マクロ経済モデル分析	×
	藤田康範研究会	応用ミクロ経済学	○
	藤原一平研究会	マクロ経済学・国際金融論	○
	藤原グレーヴァ香子研究会	ミクロ経済学・ゲーム理論	*
	穂刈享研究会	ミクロ経済学、ゲーム理論	○
	和田龍磨研究会	国際マクロ経済学、計量経済学	○
	金融	新井拓児研究会	確率論・数理ファイナンス
佐藤祐己研究会		金融論・応用ミクロ経済学	*
中妻照雄研究会		データサイエンスとファイナンスへの応用	○
国際経済	秋山裕研究会	計量経済学・経済発展論	○
	大久保敏弘研究会	国際経済、貿易	×
	嘉治佐保子研究会	国際マクロ経済学・欧州経済論	○
	木村福成研究会	国際貿易論、開発経済学	○
	駒形哲哉研究	国際経済(中国)	*
	櫻川昌哉研究会	国際金融論と国際経済	○
	白井義昌研究会	国際マクロ・国際貿易	○
	松浦寿幸研究会	国際経済	○
	松浦寿幸研究会	国際経済	○

国際金融論	竹森俊介研究会	国際経済学・国際金融論	○
経済史	飯田恭研究会	ヨーロッパ経済史・社会史・環境史	×
	太田淳研究会	東南アジア経済史	×
	神田さやこ研究会	南アジア経済史	*
	中西聡研究会	経済史・日本経済史	×
	難波ちづる研究会	植民地史、帝国史	×
	松沢裕作研究会	日本社会史	×
計量・統計	片山翔太研究会	統計科学、大規模データ解析、機械学習	*
	河井啓希研究会	計量経済、統計	×
	田中辰雄研究会	計量経済学、IT産業の実証分析	*
	長倉大輔研究会	計量経済学・時系列分析・金融計量	×
	中嶋亮研究会	応用ミクロ経済学	*
	星野崇宏研究会	計量経済学・機械学習・行動経済学	○
産業・労働経済	石橋孝次研究会	産業組織論	×
	植田浩史研究会	労働経済学	○
	太田聡一研究会	労働経済学	*
制度政策	駒村康平研究会	社会保障制度、社会政策、福祉	*
	寺井公子研究会	公共経済学	○
	土居丈朗研究会	財政学・公共経済学・政治経済学	*
	山田篤裕研究会	社会政策論(社会保障、雇用政策、医療経済)	○
経済学史・思想史	池田幸弘研究会	経済思想史・経済政策思想	○
	川俣雅弘研究会	経済学史	*
経済思想史	壽里竜研究会	社会思想、社会思想史	○
経済地理	河端瑞貴研究会	経済地理	*
	武山政直研究会	経済地理、サービスデザイン	*
開発経済学	大平研究会	開発経済学・地域経済学	○
	山田浩之研究会	開発経済学	×

財政社会学	井手英策研究会	財政社会学	○
医療経済学	井深陽子研究会	医療経済学	○
行動経済学	大垣昌夫研究会	行動経済学	×
人口論	石井太研究会	人口論	×
教育経済学	赤林英夫研究会	教育経済学・労働経済学・行動経済学	○
環境経済学	大沼あゆみ研究会	環境経済学	*
都市計画	長谷川淳一研究会	都市計画	×
PCP	PCP	英語による経済学個人研究	○
研究プロジェクト		個人の興味のある学問分野	○
PEARL	Ito Asei Seminar	Chinese and Asian Economy	
	Fukuhara Masahiro Seminar	Fintech & People Analytics	
	Kawabata Mizuki Seminar	Geographic Information System	
	Kimura Fukunari Seminar	International Economics	
	McKenzei Seminar	Economics of Family	
	Teruo Nakatsuma Seminar	Data Science and Fintech	
	Tatsuma Wada Seminar	Macroeconomic	

新規募集ゼミ

研究会名	選考内容	PEARL
小西祥文研究会	応用ミクロ経済学・環境経済学	*
直井道生研究会	都市経済学・応用計量経済学	*
橋口勝利研究会	日本経済史・経営史	×
前多康男研究会	金融経済学・マクロ経済学	×
崔在東研究会	近代社会経済史	×

PEARL 生専用ゼミ

Akira Sasahara Seminar	International Economics
McKenzie Seminar	Economics of the Family
Simon Clinet	Econometrics of Financial Markets

小西祥文研究会

—応用ミクロ経済学・環境経済学—

1. 研究分野

私は、環境政策（制度・施策）の効果に関する応用（実証）ミクロ経済学的な研究を行うことで、日本の環境政策の設計（デザイン）に役立つような知見の蓄積を行っています。とくに「交通と環境」をテーマとした様々な研究を行っています。例えば、自動車へのインセンティブ施策は本当に環境効果があったのか、自動車燃費規制は効率的な規制といえるのか、ライドシェアは環境にとって良い結果をもたらすのか、交通ネットワークへの公共投資は交通由来の環境汚染にどのような結果をもたらしたのか、といった問いに関する研究を行っています。

私の研究テーマは、恐らく、皆さんにとっても身近で分かり易いものかと思えます。では、研究手法の方はどうでしょう？「応用（実証）ミクロ的な研究」とはどういうものなのでしょう？抽象的（ないし端的）に言うと、「ミクロ経済学の理論枠組みとミクロ計量経済学の実証手法（統計的因果推論手法）を有機的・統合的に応用した研究」あるいは「理論的定式化に基づくミクロ経済学的実証研究」を意味します。しかし、実際に研究を行い、学術誌を読んでいくと、このような端的な言葉では表現しきれないことも分かってきます。

例えば、2009年4月以降、日本では断続的にエコカー減税・補助金施策が実施されました。このようなインセンティブ施策は、実際に自動車由来の二酸化炭素排出量を削減したのでしょうか？過去数十年間、計量経済学は大きく様変わりし、このような「政策の因果効果」を検証する最善の方法は、データの外生的変分を利用した準実験（ないし実地実験）手法であることが分かっています。しかし、単に因果効果が分かっただけで、今後の政策のデザインに役立つでしょうか？仮に環境効果が無かったとしたら、どのように政策を修正すれば良いのでしょうか？ここで役立つのが、経済学に基づく理論的定式化です。同施策は環境性能車を優遇する設計となっているため、より環境性能の高い車種へ需要をシフトさせます。一方で、同施策は全ての車種に対して実質的な減税ないし同じ税率となっているため、需要は刺激され販売台数は増加するはずですが。したがって、前者の販売ミックス効果と後者の販売台数効果のいずれが大きいかによって、排ガス・温暖化ガス抑制効果があったか否かを評価できることとなります。見方を変えると、車種別税率の変化に対して消費者需要がどのように反応するか、即ち、自動車需要の価格弾力性・交差弾力性の厳密な推定値を得ていれば、より効果的

な政策をデザインできることが分かります。このように、ミクロ経済学的なテーマに関して、「因果効果に関する検証結果」と（その背後にある）「因果メカニズムに関する経済学的知見」を提供できるような研究を「応用ミクロ的研究」と（私は）呼んでいます。

2. 学生への要望

私の研究会では、「本当の意味で環境問題の解決に役立つような制度・施策ってなんだろう？」という問いに対する答えを、応用・実証ミクロ経済学的なアプローチから真摯に探究していくことに興味を持っている方を募集しています。私が主に研究を行っているテーマは、「交通と環境」に関連する諸問題ですが、関連する問題であればどのようなテーマに関心を持っていても構いません（例えば、私は健康・労働も密接に関連すると考えています）。また、私は大学におけるリベラル・アーツ的な学びを重視します。ゼミでは、経済学全般、計量経済学、環境経済学、統計的因果推論などを日本語・英語両方の文献を使いながら、一緒に学んでいきます。ですが、その学びの目的は、単に各分野の「知識・スキル」を手に入れることではありません。大学卒業後、皆さんが、学んだ内容を様々な形で応用できるような「考え方」を身につけて頂くことを目的とします。

経済学、特に私の専門とする応用ミクロ経済学は、分離融合型で極めて柔軟かつ論理的な思考を要求される分野です。ゼミで得た「知識・スキル」そのものは、

卒業後に直接使える機会は少ないかも知れませんが、ゼミを通して得られた「考え方」は、民間・官庁・アカデミアを問わずほぼどのような分野・組織に行っても活用することが出来るはずです。

最後に、本研究会は、今年度から新設されます。従って、一期生の皆さんは、今後の小西研の活動方針の土台を作るというとても重要な役割を担って頂きます。そのような役割を私と一緒にやっていけるような意欲的な方達に来ていただきたいと思っています。また、筑波大学における指導学生（博士 1 名、修士 3 名；男性 3 名、女性 2 名）が、そのまま実質指導を希望していますので、彼らと一緒にゼミを行っていくことを計画しています（学部時代に極めて高い GPA を獲得した優秀な学生ばかりです）。

3. 選考について

1 募集人数

10 名程度

2 選考内容

A. 成績表 B. レポート課題

(Stata/Excel 使用) C. 興味のあるテーマ

D. 面接

3 他学部入ゼミ：不可

PEARL 生受入れの可否： 可（但し、
日本語で資料読み込み・論文作成が出来る
能力を有する方に限ります）

4 選考基準

上記 A～D をもとに、環境問題への関
心，学習・研究意欲，実証研究の潜在的
能力，人柄（自立心・他人を尊重する心）
などを総合的・主観的に判断します。

直井道生研究会

— (都市経済学・応用計量経済学) —

1. 研究分野

この研究会では、都市や地域における経済活動を分析の対象とする、広い意味での都市経済学を扱います。研究会では、都市経済学の考え方や分析ツールを習得するとともに、それらを現実の経済問題に応用し、経済学的な観点から自身の見解を持てるようにすることを最終的な目標とします。分析のアプローチとしては、理論的な分析に加え、計量経済学の手法を応用した実証分析を重視します。したがって、研究会では、現実の経済問題に対する理論的な分析から始まり、そこから導かれた仮説を検証するためのデータの収集やパソコンを用いた計量経済学的な分析手法などの、一連の分析スキルを身につけていきます。

本ゼミでは、都市経済学および隣接分野の教科書や、個別のトピックに関する専門論文を講読し、ゼミ生によるプレゼンテーションを行うことを予定しています。ここでは、自分が理解した内容や主張などを、分かりやすい形で他人に伝えるためのプレゼンテーションスキルを身につけます。また、基礎となる分析スキルについては、サブゼミや担当者による演習などを通じて、身につけていくことになります。上記に加え、他大学とのインターゼミも実施する予定です。

これらの活動を踏まえ、三田祭論文および卒業論文では、自身の問題意識に基づいてテーマを設定し、それを経済学的に検討していきます。取り上げるテーマは、広く応用ミクロ経済学のカバーする範囲であれば、必ずしも都市問題に限定しませんが、その場合にも、原則として経済理論に基づく仮説の設定とデータを用いた実証分析を行うことが求められます。これまでの卒業論文・三田祭論文のタイトル、ゼミで輪読に用いたテキスト・論文などについては、ホームページ (<https://sites.google.com/site/michionaoi/teaching/seminar>) を参照してください。

2. 学生への要望

担当者の在外研究に伴い、2017～2019年度は募集を停止していました。実質的な1期生として、ゼミの運営や企画・立案に積極的に関わっていただける人を希望します。内容的な面では、都市問題に限らず、現実のさまざまな課題を経済学的な考え方で分析し、かつそれらをデータによって実証的・客観的に検討してみたいという人を歓迎します。

入ゼミにあたっては、原則として日吉でのミクロ経済学初級および統計学の単位を取得していることを条件とします。そ

の他、計量経済学概論、情報処理などの科目についても、履修していると、研究会での学習に役立つと思いますが、必須ではありません。

3. 選考について

1 募集人数

10 名程度 (A・B 日程合計)

2 選考内容 レポート課題および面接 (A・B 日程とも共通)

3 他学部入ゼミ：可

PEARL 生受入れの可否：日本語による参加が可能ならば可

4 選考基準

レポート課題の内容と面接の総合評価で選考を行います。

橋口勝利研究会

— (現代的課題を歴史的に考える) —

1. 研究分野 近現代の日本経済史・経営史

2. 学生への要望

①研究会では、専門書を読み取る力と議論する力を養います。

それだけでなく、企業見学や地域への現場学習を取り入れる予定です。

ですから、積極的に行動する学生を求めます。

②研究内容は、大学や自治体への報告を行ないます。それだけでなく、研究論文やレポートとして積極的に投稿していきます。このことで表現力を高めてもらいます。

③メンバーの交流を促進して一体感ある研究会を目指します。

研究会への熱い思いをもった学生を求めます。

3. 選考について

1 募集人数

10名程度

2 選考内容

志望理由書、課題作文と面接

3 他学部入ゼミ： 否

PEARL 生受入れの可否： 否

4 選考基準

積極的に参加する意思があるかどうかを重視します。

専門的知識の有無は問いません。

前多研究会

—金融経済学, マクロ経済学—

1. 研究分野：金融経済学，マクロ経済学

わが国の経済は、今まさに激動の時代にあります。なかでも、金融の世界においては、情報技術の高度化、経済のグローバル化を受けて、目覚ましい進歩を遂げています。前多研究会では、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学，などのあらゆる分野の経済学を総動員して、金融の研究を深めていきます。経済学を駆使して金融分野の過去と現在の様々な現象を分析し、未来への課題とそれに対する自分なりの答えを見つけ出す醍醐味を味わってみたいと思います。

研究会の運営方針としては、ゼミ生の自ら学ぶ自主性に磨きをかけるため、私は可能な限り「聞く」スタンスをとっています。私の役割は、学生が自由闊達な活動を行うための「場を提供する」ことであり、各ゼミ生が地力を自ら求めて最大限まで伸ばしてもらいたいと願っています。

4月に入ゼミしてまず、ゼミにおいて研究するテーマを決め、パートと呼ばれるグループに分けます。このパートごとの自主的な活動がゼミ活動の主軸になります。昨年度はパート毎に日経ストックリーグに参加しました。来年度も同様に参加の予定です。「個」の力の基礎となる方法論は、全員が一同に参加する本ゼミに

において、会計学，金融，ファイナンス，マクロ経済学のテキストを用いて身に付けます。これらの各ゼミが有機的な相互作用を及すことで、ゼミ全体の教育効果を狙っています。ゼミ生には、自分を發揮できる各分野で、社会の先導者となってもらいたいと願っています。

2. 学生への要望

経済学を学ぶにあたっては明確な問題意識を持ってください。

3. 選考について

- 募集人員：15人程度（A日程），B日

程はA日程で募集人数に達しない場合に行う。

- 選考内容：マクロ経済学に関する筆記試験，面接，成績表。
- 他学部およびPEARLからの受け入れはいたしません。
- 選考基準：経済学に関して基本的な知

識を有し，かつやる気のある学生を希望します。

崔在東研究会

—近代社会経済史—

1. 研究分野

本研究会では、近代化過程で人々が逢着していた様々な問題について多国の比較研究を行う。担当者の専門領域は19世紀後半から20世紀前半のロシア・ソ連の社会経済史であるが、関心領域はロシアに限らず、ポーランドとハンガリーなどの東欧諸国、ルーマニアとブルガリアなどのバルカン諸国、そしてイギリス・ドイツ、フランスなどの西欧諸国を含んでいる。なお、本研究会では韓国（朝鮮）、日本、中国なども視野に入れて、比較経済史的研究を進め、ユーラシアの視点からヨーロッパを相対化していくような研究と議論を試みたいと思っている。

比較研究の素材は、前近代社会の農村構造であり、また近代化の過程でもたらされた諸変化である。具体的には「家族一世帯」、「共同体」、「土地」を共通テーマとする。世代継承の基礎単位である「家族一世帯」と「共同体」のあり方は国によって異なり、「土地改革」と近代化過程における対応も異なる。さらに、「ジェンダー」、「人口」、「植民と移民」、「農民運動」、「社会主義」、「労働と労使関係」などもその射程に入る。

前近代社会から近代社会への移行は国によって非常に多様な形で行われるが、いずれも極めて変化に満ちた興味深い過程を見せている。人々がどのように変化の時代を生き延びようとしたのか、各国

の政府はどのような政策を講じていったのか、変化と相違をもたらす原因とその結果を究明していくこと、さらには現代とのつながりを模索することが、本研究会の基本課題となる。

研究会では、まず共通テーマの関連文献の輪読を行う。輪読文献は、共通テーマに関連する多国の事例研究の中でピックアップし、議論の叩き台とする。

メンバー全員に、輪読と議論などを通じて独自の研究テーマを見つけると共に、実証的論文（卒業論文）をまとめていくことを義務とする。

なお、研究会はあくまでも学生が主体となって自主的に運営されることを原則とする。

2. 学生への要望

何よりも論理的な思考を通じて、自分なりの見解を確立していくことを重視したい。人の意見を鵜呑みにすることなく、さまざまな意見や論理について常に問いかけ、物事を広く相対的に見る姿勢を身に付けていくことを願っている。

なお、経済と社会を歴史的にアプローチする楽しさと必要性を共有できると、比較史的視点と現代の視点からの積極的な問題提起と議論を期待する。

3. 選考について

① 募集人員

A 日程、B 日程あわせて 10 人程度
(経済学部以外の学生も含む)

② 選考内容

- ・ 欧文または和文論文のレビューの提出
- ・ 面接：志望動機、関心のあるテーマ、語学力（英語、ロシア語、韓国語、その他）、

現代と歴史についての問題意識などを問う。

- ・ 成績表のコピーの提出

③ 他学部入ゼミ：可

PEARL 生受入れの可否：不可

4. 選考基準

志望動機と問題意識、語学力を重視する。

Akira Sasahara Seminar

— (International Economics) —

1. Field of study

We will study a variety of topics on international trade and international macroeconomics. The seminar will be designed to make you learn empirical methods and theoretical models necessary to understand academic articles on classical and ongoing issues in international economics. Most of my research takes empirical approach. Therefore, I would like to focus more on data and quantitative methods. These skills have become more useful and practical due to an increasing demand for empirical and quantitative skills in academia, industries, and public sectors.

After successful completion of the two year seminar, you will be able to (1) demonstrate your knowledge on international economics; (2) critically read other researchers' empirical studies on economics; (3) write your own academic articles on economics; and (4) present your work in front of academic and non-academic audience in an engaging manner. I would like to train and help my

students to write high quality graduation theses. For example, <https://economics.stanford.edu/undergraduate/honors/honors-theses> <https://www.econ.berkeley.edu/undergrad/theses> <http://giovanniperi.ucdavis.edu/honor-thesis.html>

To achieve these goals, for the first two or three months, in the 4th period on the seminar day, I will give a lecture on empirical methods, focusing on cross-section and panel data (mostly based on Introductory Econometrics: A Modern Approach by Jeffrey Wooldridge). I understand that most of you have taken an econometrics course but I would like to make sure that everybody is on the same page. In the 5th period, two or three students will be presenting non-technical academic articles on international economics (20 minutes presentation plus 10 minutes discussion). Articles will be chosen from, for example, Journal of Economic Perspectives, IZA World of Labor, Annual Review of Economics, and VOX CEPR Policy Portal.

I, as a researcher, work on research in the field of international economics such as the employment effect of trade, the impact of

expanding global value-chains on value-added contents of trade, the effect of climate change on migrations, and quantifying GDP losses due to sovereign debt crises.

2. Expectation for students

Motivated students are very welcome to join. Students who are interested in going to graduate school are especially welcome to join.

3. Admission

1 Quota

About 15 students

2 Exam

Admissions will be based on the following: [1] two application documents (the committee's application document and the one that will be downloadable on my website

https://sites.google.com/view/akirasa_sahara/home), [2] interview via Skype (roughly 30 minutes), and [3] academic transcript.

If you decided to choose this seminar, please send your application documents to sasahara@uidaho.edu by the end of Monday, March 9th, 2020 (in Japan time). I won't be in Japan on March 12th. Therefore, we will have a

one-on-one Skype interview on that day. You will be asked to show me your academic transcript during the interview so please have it with you on that day.

3 Whether or not accept PEARL students or students from other faculties?

This seminar is open to PEARL students and Double Degree students only for this year. The seminar will start in Fall 2020 semester. I will join Keio in June 2020.

4. Criteria

Two application documents (40%); Skype interview (40%); Academic transcript (20%)

5. Short bio

I, Akira Sasahara, was born and raised in Yamagata prefecture in Japan. I received my bachelor's degree in Business and Commerce from Keio University in 2009. I went to Hitotsubashi University's graduate school in economics and obtained my master's degree in 2011. I started my Ph.D. studies on economics at the University of California, Davis, in 2012 and completed the program in 2017. In the same year, my career as an

Assistant Professor of Economics began at the University of Idaho. In addition, I did internship at the International Monetary Fund in Washington D.C. in the summer of 2015.

6. Teaching experience

I did teaching assistant for eight different courses at UC Davis and I have taught 15 sections of three different courses as an instructor at the University of Idaho. I feel that I have spent a great deal of time preparing for my classes, grading, responding to students' e-mails, and office hours. While challenging at times, it was a great experience and has been extremely beneficial. My time as an instructor has helped shape my teaching styles and has enhanced my ability to teach effectively.

To give an idea of who I am, I show some verbatim comments I received from my students at the end of previous semesters.

- Akira has absolutely mastered this class and his profession. He comes to class every single day with positive vibrance that immediately engages students. The exams accurately reflect course expectations and material, and the empirical project is a

great learning experience. I have recommended this class to virtually everyone I know and so have many others. The CBE is beyond lucky to have as incredible of a professor as Akira and should do everything they can to keep him happy and ensure he never leaves. [*Fall 2018, ECON453, Econometrics*]

- Amazing teacher give him a raise and keep him around at all costs. He's very respectful and doesn't look down on you for not understanding and is patient and works you through it. He looks and act genuinely excited to teach and see us every day. I'm not very good at math and he took the time to have econ labs and one on one interaction that helped me a lot. [*Fall 2018, ECON446, International Economics*]
- This class was phenomenal. Akira deserves the best teacher award 100x over. He takes material that is abstract and incomprehensible and makes it interesting, exciting, and engaging. Every single class has been worth attending and I am so glad to have been able to have taken this course. I cannot give enough praise to the professor.

[*Fall 2018, ECON453, Econometrics*]

- This was hands down the most organized and best class that I have ever taken. Akira is an amazing professor and I have learned more from him than anyone before. I have never liked econ before but he made it interesting. His lectures were interactive and he made it easy to understand complex topics. I could go on and on about how much I enjoyed this class. I will try to take more classes from him in the future! [*Spring 2019, ECON201, Principles of Macroeconomics*]
- Dr. Sasahara exemplifies what a teacher should be. He is very bright, dedicated, and helpful. The way he structures his class makes it easy to follow along. His help outside the classroom was huge for the learning process. I would give nothing but positive recommendations to anyone on taking his class. [*Spring 2019, ECON453, Econometrics*]
- Akira is a fun teacher. Akira takes economics and turns it into something that can be interesting to learn about. Akira references pop culture and many relatable things into economics for a better understanding. I

think Akira did an outstanding job presenting the course material. [*Spring 2019, ECON201, Principles of Macroeconomics*]

- This is by far one of the best classes I've taken at the U of I. If someone other than Akira is reading this I would highly advise you to try to keep him here as long as possible because he is a great asset to CBE and the rest of the U of I. [*Spring 2019, ECON453, Econometrics*]

7. Research

I have been actively working on scholarly activities and my fields of research include a variety of topics on international economics. My papers appear in international journals such as the Review of International Economics and the Journal of the Japanese and International Economies. Please check my website for further information

<https://sites.google.com/view/akirasasahara/home>

8. Other information

Please do not hesitate to e-mail me: sasahara@uidaho.edu. If you would like to talk with me, I am very happy to set up a Skype meeting to answer your questions.

McKenzie Seminar

— () —

1. Field of study

The field of study of this seminar is the "Economics of the Family". Gary Becker was awarded the Nobel Prize in 1992 "for having extended the domain of microeconomic analysis to a wide range of human behavior and interaction, including nonmarket behavior." He is acknowledged as the birth parent of the modern research area commonly known as the "Economics of the Family".

The Becker-style approach emphasizes the ability of economics to explain, for example, why people marry, why people divorce, why they have children, and why first born children are advantaged.

This seminar will focus on empirical analyses related to the Economics of the Family using data sets available from Keio University's Panel Data

Research Center, for example, the Japan Household Panel Survey (JHPS), the University of Tokyo's Center for Social Research and Data Archives, and other publicly available cross-sectional and panel data sets.

McKenzie's current research area is the Economics of the Family, and focuses on the impact of the gender of children on their mother's labour supply, the impact of birth order and gender on parental allocations of their financial and time resources to their children, and child poverty.

2. Expectation for students

In this seminar, students are expected to undertake empirical research that is strongly based on economic theory. For this purpose, it is important that students have a good understanding of microeconomics and statistics. It is desirable that 3rd year students take

econometrics related courses.

3. Admission

1 Quota

10-12 Students (This Seminar starts in September 2020).

2 Exam

Students will be evaluated on the basis of their application document which must be written in English, their academic record at Keio, and an interview conducted in English by McKenzie.

3 Whether or not accept PEARL students or students from other faculties?

This seminar will accept PEARL students (from September 2020), type A/B students (from April 2021), and students from other faculties (from September 2020 or April 2021 depending on the faculty).

4. Criteria

The interview will include questions related to the student's reasons for wanting to enter this seminar, the student's basic understanding of economics, how the student can contribute to the seminar, and the student's expectations for the seminar.

Simon Clinet Seminar
—Econometrics of Financial Markets—

1. Field of study

Econometrics and applied statistical methods for financial markets data.

The main objective of this seminar is to provide the necessary skills and methods in order to analyse and use data coming from financial markets (stock prices, trade and quotes records, ...). It is intended for any student who wants to work in the financial industry in the future, or simply wants to conduct academic research in financial econometrics.

2. Expectation for students

After a few introductory sessions, each student will be expected to choose a project, write a report and make a final presentation at the end of the semester. The project will include a mixture of numerical simulations and real data analysis (preferably with the programming languages R and/or Python). Theoretical projects are also possible. The students will have to discuss their progress on a regular basis with their instructor.

3. Admission

1 **Quota**

Maximum number of students: 20.

2 **Exam**

10-minute long interview.

3 **Whether or not accept PEARL students or students from other faculties?**

PEARL students and students from other faculties having the adequate background are welcome (see below).

4. **Criteria**

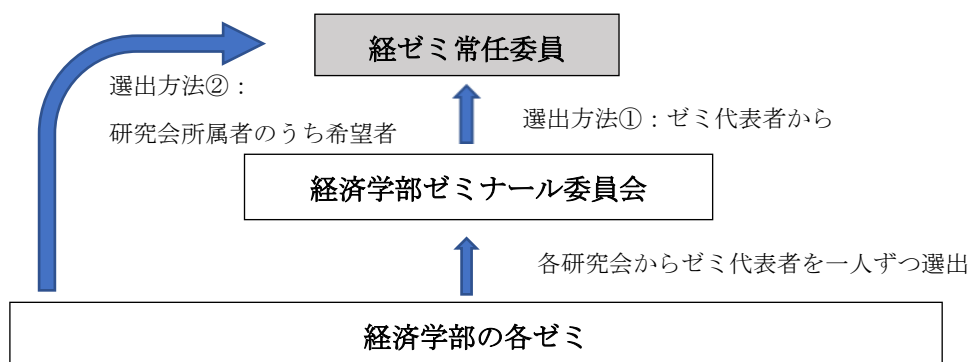
The applicants should have a reasonable background in introductory statistics and/or data analysis. It is not necessary to have any knowledge about R and/or Python but the students should feel highly motivated to learn how to use a programming language and work with real data. Each applicant is expected to show initiative and to be able to work independently

経済学部ゼミナール委員会とは

経済学部ゼミナール委員会（略称：経ゼミ）は、慶應義塾大学経済学部設置されている各研究会より一名ずつ選出されたゼミ代表を委員として構成される委員会です。慶應義塾大学の「上部団体・福利厚生等団体」に所属する団体となります。経済学部のゼミナールに所属している学生は1学年あたり約1000人弱います。この多くの人数を抱えた経済学部の各研究会間の親睦を図り、諸問題を解決し、入ゼミや三田祭論文発表などの各種企画行事を開催しています。そして経済学部から慶應義塾の興隆に寄与することをその目的としています。入ゼミは単位に関わるものでもあり、学事センターが管理していると思われがちですが、説明会や試験も学生の代表である経ゼミが学事や教授と協力の下、運営管理している点が特徴です。

経済学部ゼミナール委員会 構成

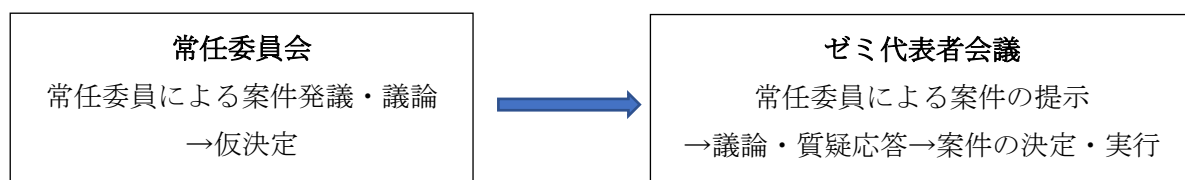
- ・会長 : 駒形哲哉 教授
- ・構成員 : 経済学部各研究会からの代表者
- ・常任委員 : 研究会所属者のうち意欲ある者(ゼミ代表者に限らない)



経済学部ゼミナール委員会 目的・意義

- ・経済学部として慶應義塾大学の興隆に寄与する。
- ・経済学部の研究会相互間の親睦を図る。
- ・各ゼミへの情報伝達を行う。
- ・常任委員が必要だと判断した際、ゼミ代表者会議を開く。
- ・週1回、常任委員による常任委員会を開く。

経ゼミ総会と常任委員会の現在の関係



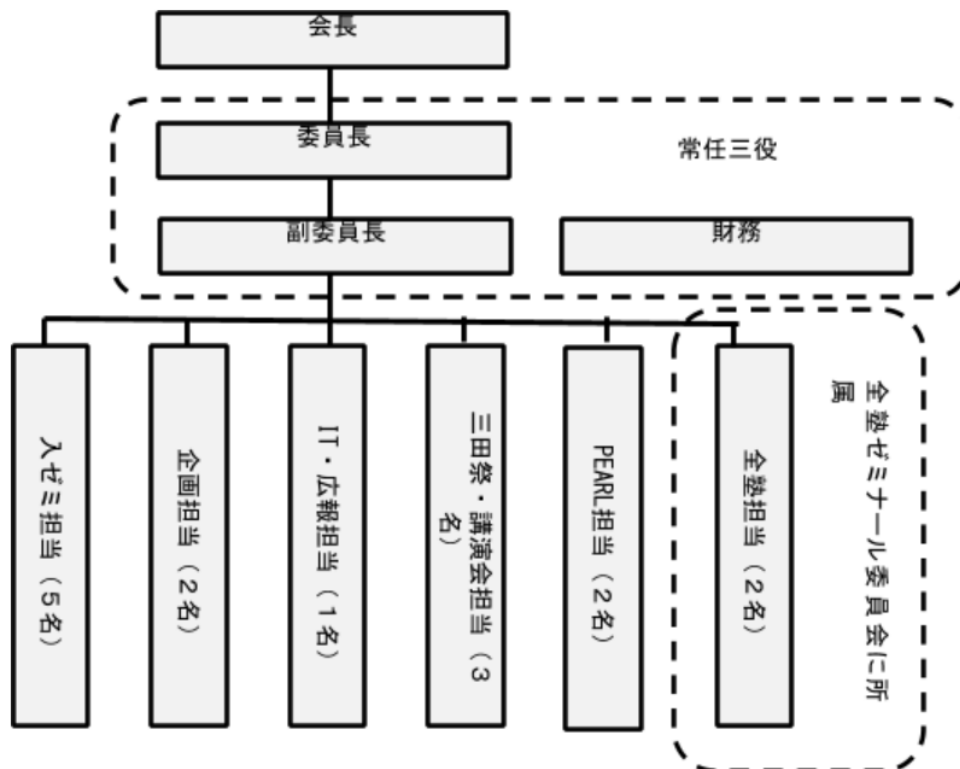
☑ 経ゼミは何をしているのか

- ・入ゼミの運営、開催（説明会の実施、資料作成、オープンゼミなどの実施、試験の管理）
- ・各研究会の三田祭における論文発表の場所確保、運営
- ・ゼミ内ゼミ間親睦の為のソフトボール大会など企画の運営
- ・各種講演会の企画、運営
- ・研究会活動の促進の為の問題提議と解決

☑ 経ゼミ常任委員とは

経済学部研究会に所属する者のうち希望者から、それぞれの役職を持った常任十数名が選出されます。常任委員はゼミ代表者である必要はなく、研究会に所属する者ならば全ての人に立候補の権利があります。それぞれの担当が経ゼミ内の企画の仕事に責任を持ち、活動しています。伝統を守り、数多くのルーティンワークをこなしながら新しい企画の導入も検討し、現状の活動に問題がないかを常に考えていく姿勢が求められます。

いかに常に考えていく姿勢が求められます。



Web サイトに入ゼミ関連情報を掲載しています。

経済学部ゼミナール委員会 Web サイト : <http://keizemi-keio.info/wp/>

経済学部ゼミナール委員会 Twitter : @2019keizemi

経ゼミに興味がある方、質問等は経ゼミブースへ

また入ゼミに関するお問合せ等は、keio.econ.nyuzemi2019@gmail.com まで

